薬学部　鈴木啓斗

私は水田三喜男記念奨学生としてハンガリー研修に参加し、ブダペスト商科大学の学生との交流や、様々な講義、市内見学などを通して三つのことを学んだ。

一つ目はハンガリーという国の歴史、変遷についてです。ハンガリーは内陸国であり、農耕や牧場に適した土地であることから、民族間の争いや、戦争の火種となっていました。その中で、様々な民族や国の支配を受けてきたため、欧米的な建造物や文化はもちろん、アジア系の特徴が残る建造物や文化が存在しています。また、戦争などの影響により、時代によって国境や領土が変化し、様々な民族の人々が入り混じる多民族国家になりました。日本では国籍によって、明確に日本人であるかを区別できることがほとんどですが、ハンガリーでは歴史的背景から、国籍だけでハンガリー人かを決定することについて、問題提起されていたので、とても驚きました。

二つ目は、今回のプログラムである ICT 化についてです。ブダペスト商科大学での講義だけでなく、政府情報技術開発庁やエトヴェシュ・ロラーンド大学（ELTE）で講義を受け、ハンガリーでは授業などにどのように ICT 技術が導入されているかを学ぶことができました。また、学校教育の ICT 化だけでなく、様々な分野での ICT 化のメリットや具体的にどのようなことが行われているかなどを学ぶことができました。今後 ICT 化が進むにつれて、私たちが注意すべきことや、どのような変化がもたらされるのかなどについても学ぶことができました。

三つ目はハンガリーと日本の文化や習慣、コミュニケーションについてです。異なる文化のもとで育った人とのコミュニケーションにおける障害は、言語や習慣、談話的特徴、価値観、規範、信念、感じ方などの違いといった、目に見えない文化です。このような環境でコミュニケーションを円滑に進めるには、お互いの文化について知ることや、適切な非言語行動を身に着けることが必要です。しぐさ自体が同じであっても、日本とハンガリ

一で意味が異なる、または、反対の意味になってしまうことがあります。実際にブダペスト商科大学の学生と交流したときや、協力して発表スライドを作成した際に、意思の疎通が言葉以外の部分でうまくいかないことがありましたが、お互いにしぐさの意味を確認し、身振りだけでなくしっかりと言葉にすることを心掛けたことで、円滑なコミュニケーションが可能になっていきました。また、スライドを作成している際に、ハンガリーの学生と日本の学生で考え方や進め方の方針にずれが生じていた際には、考えや何故そうしたかを伝えお互いに理解することで、自分の考え方、物の見方が広がることがありました。こうしたことからハンガリーの文化だけでなく、言語的不自由さがある中での、円滑なコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。

今回のハンガリー研修を通して、日本では体験できない文化の違いや、考え方について学び、新しいものの見方などを学べたと思います。また文化などの違いがある中での共同作業をするということについて深く学ぶことができたと思います。今回の研修で学んだことを、これからの学生生活をはじめ、社会に出た際にグローバルな場での仕事や研究などで、様々な人とかかわる際に生かしていきたいと思います。最後に、本研修では多くの方々にご支援いただきました。本研修に際し、多くのご指導をいただいた佐野先生、石川先生をはじめ、ブダペスト商科大学の先生方、多くのご支援をいただいた関係者の方々に心より感謝申し上げます。水田三喜男記念奨学生として本研修に参加させていただき多くの貴重な体験をさせていただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。